

8. 連合創薬医療情報研究科

I	連合創薬医療情報研究科の研究目的と特徴	8 - 2
II	分析項目ごとの水準の判断	8 - 3
	分析項目 I 研究活動の状況	8 - 3
	分析項目 II 研究成果の状況	8 - 4
III	質の向上度の判断	8 - 5

I 連合創薬医療情報研究科の研究目的と特徴

[目的]

本研究科では、研究科固有の研究の推進を図り、科学技術の発展と変化に応じた研究の推進を図るとともに、外部資金の導入を目指した研究機関横断的なプロジェクトを推進するなどを研究の目的としている。また、「創薬」及び広義の「医療情報」に関わる独創的・先進的研究拠点の形成並びに地域再生への拠点の形成を目指すとともに、「新たな医薬品」・「安全で有効な薬物治療法」・「医薬品の適切な評価方法」・「臨床応用技術」等の研究及び開発についても積極的に取り組んでいる。

[特徴]

本研究科は、岐阜薬科大学と連合し、更に、(独)産業技術総合研究所及びアステラス製薬(株)との連携体制を構築し、強力な研究支援体制を築き、より高度で専門的な研究の実施を可能としている。

[想定する関係者とその期待]

現代の社会を取り巻く状況を見ると、生活環境の変化などに起因する免疫・アレルギー疾患、高齢化に伴う生活習慣病・認知症等の増加は、健康問題を国家的・社会的課題に押し上げる一方、医療制度を圧迫し、老後に対する不安を増大させている。このような状況の中、健康を重視した安全・安心で活力ある社会を構築することが強く望まれている。これらの諸問題に対処すべく本研究科としては、学部の垣根を取り払った「創薬」や「医療情報」に関する高度で専門的な新学問領域の創生とその発信が求められている。また、医療・行政機関からは、最新の創薬科学や医療情報学の知見を活用する高度医療専門職の育成が求められている一方、バイオ・製薬企業などの産業分野からは、最新の創薬科学や医療情報学の知見を活用する研究者の育成や独創的で国際的競争力を有する研究・開発テーマの提供が求められている。本研究科が平成19年4月に設立され、今後これらの期待に答えるべく活動を始めている。

II 分析項目ごとの水準の判断

分析項目 I 研究活動の状況

(1) 観点ごとの分析

観点 研究活動の実施状況

(観点に係る状況)

本研究科における具体的な研究活動の1つとして、個別化医療の基盤となる副作用情報や疾病に係わるゲノム情報の蓄積と解析の推進を行っている。また、がん、感染症、アレルギー、生活習慣病などの疾患に対するトランスレーショナルリサーチを推進するため、生体分子のPET化など分子イメージング研究及びRNA創薬などのゲノム創薬に重点的に取り組んでおり、多くの学会、研究会などを通じて研究成果を発信している。その中で、分子イメージング研究は、理化学研究所「分子イメージング研究プログラム」と連携して実施している。

本研究科が設置されて間もないということもあり、表1-1-1～5に示すように、数値的には成果が現れていないように見えるが、研究推進の基盤が徐々に構築されていけば、その成果については数値的にも現れて来るものと考えている。

表1-1-1 研究出版物の著者数で割った助教以上教員一人当たりの発行件数

研究組織	平成19年度		
	論文	著書等	合計
連合創薬医療情報研究科	3.50	0.31	3.81

表1-1-2 国際学会発表（口頭発表）の件数

研究組織	平成19年度
連合創薬医療情報研究科	10

表1-1-3 本学教員が主体となって開催した研究発表会の件数

研究組織	平成19年度
連合創薬医療情報研究科	5

表1-1-4 招待講演・基調講演の件数

研究組織	平成19年度
連合創薬医療情報研究科	1

表1-1-5 受託研究の受入れ状況

研究組織	平成19年度	
	件数	金額(円)
連合創薬医療情報研究科	3	14,817,608

(表1-1-1～5出典：教育職員個人評価に伴う貢献度実績・自己評価表で報告された実績値の集計値)

(2) 分析項目の水準及びその判断理由

(水準)

期待される水準を上回る。

(判断理由)

本研究科は平成19年4月に設置されており、ここ8ヶ月間の実績だけでは十分な判断資料を提供できない。しかし、本研究科の設置に関係した平成16年度以降の研究業績などの判断資料を基にすると、がん、感染症、アレルギー、生活習慣病などに対する基礎的な創薬科学研究、更には分子イメージング研究やゲノム創薬の推進に必要な基盤技術の開発などの研究成果が優れた専門誌に発表されている。また、医療情報分野では、大学病院の電子カルテ化やMRI装置を用いた新しい撮影方式を提案するなどの優れた研究実績がある。

平成 19 年度には、国家プロジェクトである文部科学省の「分子イメージング研究プログラム」の採択課題に本研究科の複数の教員が中心的メンバーとして参加している。

これらの成果は、優れた学術専門誌に発表されるとともに学会での受賞や新聞紙上でも高い評価を受けている。また、一部の研究は特許も出願されており、企業との共同研究が検討されている。

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

(1) 観点ごとの分析

観点	研究成果の状況
----	---------

(観点に係る状況)

本研究科の基礎となる新学問領域での創生に向けた研究などを展開している状況であるため、その基盤が徐々に構築されていけば、成果については現れて来るものと考えている。

(2) 分析項目の水準及びその判断理由

(水準)

設置年度であり、本研究科独自の研究業績がどれくらいの水準に達しているか判断できない。

(判断理由)

設置して 1 年経過していないため、判断材料がない。

Ⅲ 質の向上度の判断

質の向上があったとされるデータや取組がないため、水準の比較ができないことから、判断できない。